

1. 調査概要

(1) 目的

高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、必要な生活支援ニーズ等や近隣の支え合い状況を把握し、必要なサービス創出に向けた基礎資料として活用するため、調査を実施する。

(2) 調査対象

令和3年8月1日現在で、古平町内に在住の75歳以上の独居高齢者、または75歳以上の高齢者のみの世帯の方

(3) 調査期間

利用者対象調査：令和3年9月～12月

(4) 調査方法

回収率を上げるため、戸別訪問による聞き取り調査を実施。

(5) 回答状況

265人

(6) 備考

75歳以上の方を対象に調査を実施したが、75歳以下の方やご家族と同居している方も、様々なニーズや支え合い活動がある可能性もあることから、この調査結果がすべての古平町の高齢者の現状ではないことを留意する必要がある。

(7) 調査結果の表示方法

- ・回答は各設問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、内訳合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問では、回答者が全体に対してどのくらいの割合であるかをみているため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を除外しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計の有効回答数が合致しないことがある。

(8) 古平町内会別の基本情報

町内会	75～79歳	80～84歳	85歳以上	合計	要支援（事業対象者） 要介護認定者
あけぼの	0	4	6	10	2
旭町	9	11	8	28	10
栄町	3	3	0	6	0
沖町	1	1	3	5	2
丸山町	4	12	7	23	10
銀座	2	7	8	17	4
港町	3	3	5	11	2
新地町	4	3	3	10	5
清住	2	8	7	17	1
沢江	7	1	6	14	5
泥の木	1	0	0	1	1
入船町	4	6	6	16	6
浜一	3	10	4	17	8
浜三	15	12	23	50	26
浜五	3	3	2	8	1
本陣	5	4	2	11	1
本町	3	11	7	21	6
合計	69	99	97	265	90

※記載のない町内会は、該当者がいなかった。

【留意点】

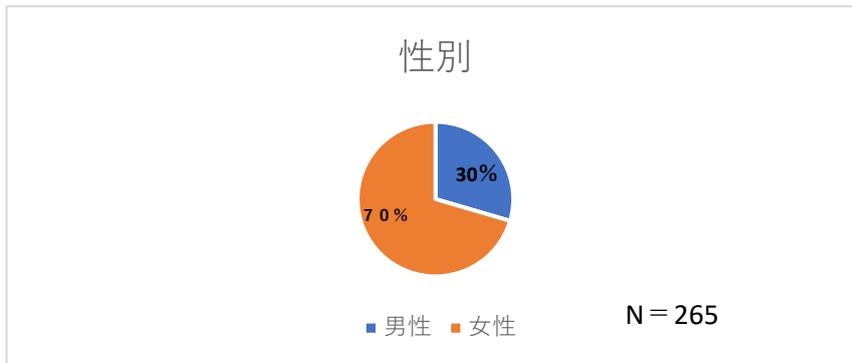
2～3回訪問しても不在のところや施設等に入所している方は対象外としている。

介護認定状況は聞き取りのみで確認したため、実際と違う場合も想定される。

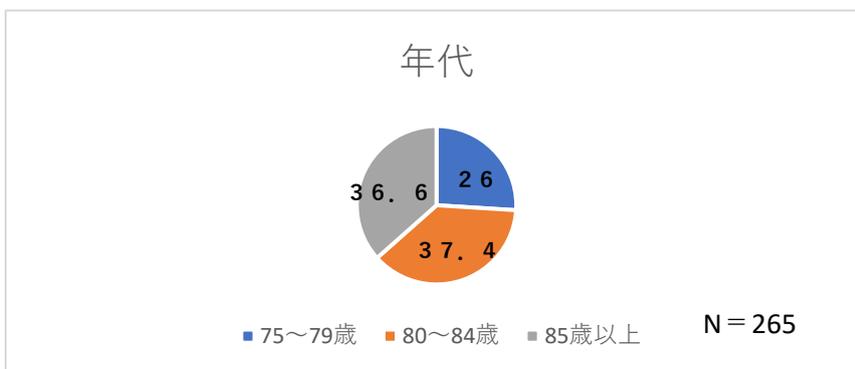
1. 高齢者の生活支援ニーズに関するアンケート調査結果

問1 あなたについてお聞きします。あてはまる番号に○をつけてください。

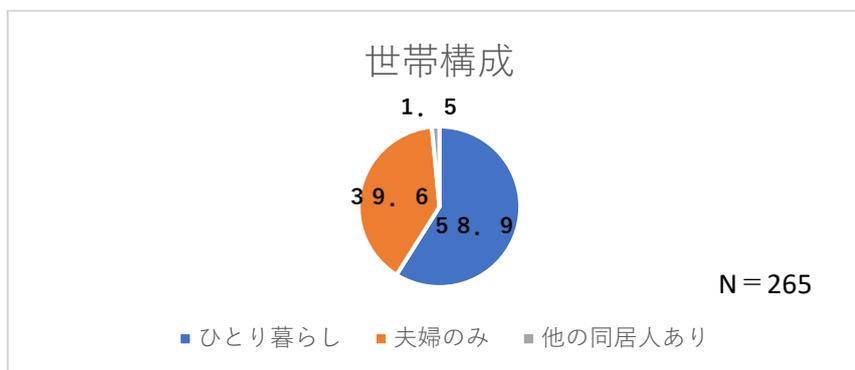
①性別 男性が約30%、女性が約70%となっている。



②年代 75歳～79歳が26%、80歳～84歳が37.4%、85歳以上が36.6%となっている。



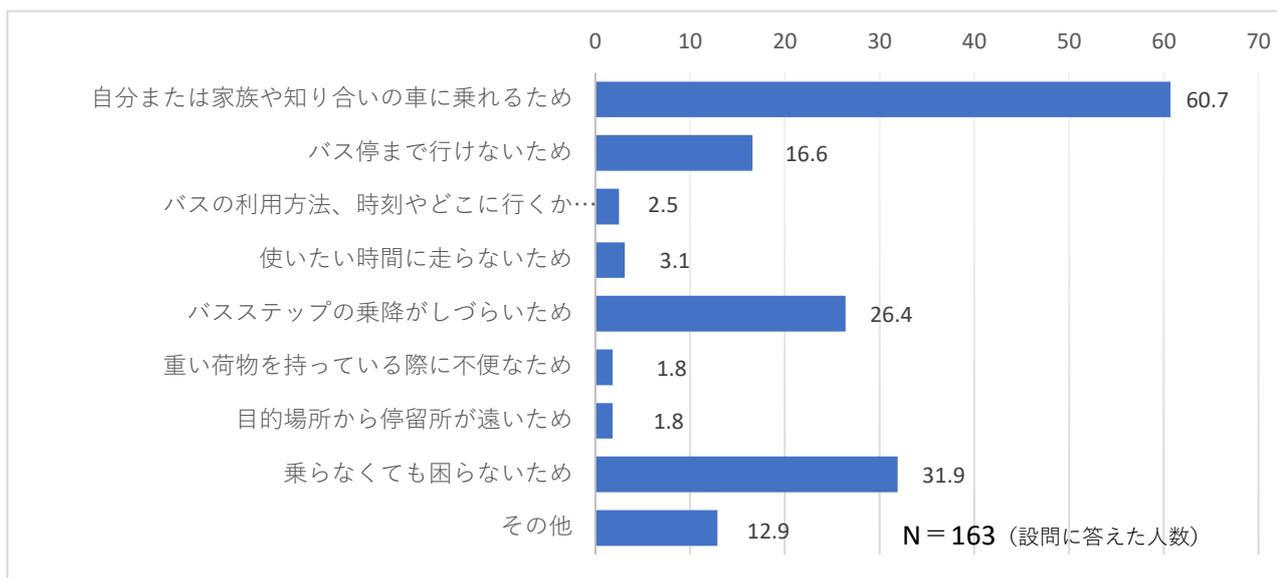
③世帯構成 一人暮らし世帯が58.9%、高齢者世帯が39.6%、その他と同居世帯が1.5%となっている。



④身体状況 要介護認定を受けていない人が65.3%、要支援・事業対象者が21.5%、要介護1.2が11.3%、要介護3以上が1.9%となっている。



問2 移動について、路線バスやコミュニティバスに乗らない理由についてあてはまる項目すべてに○をつけてください。



① 265名のうち102名の方はバスに乗車しているという回答で、全体の約38%であった。

② バスに乗車しない方163名に乗らない理由を聞いたところ、「自分または家族や知り合いの車に乗れるため」と回答した方が、99名いた。このうち、80名の方が認定を受けていない方で、19名の方は、要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。

③ 「乗らなくても困らないため」と回答した方は、52名いた。②を選んだ方のうち、35名は③も選んでいる。52名のうち、41名の方が認定を受けていない方で、②の理由のほかに「徒歩で歩けるから。」「自転車に乗れるから。」という回答があった。11名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方である。認定を受けている方は「ヘルパーさんや家族が通院に連れて行ってくれる。」「通院以外に外出することがないから困らない。」という回答が多かった。

④ 「バスステップの乗降がしづらいため」と回答した方は、43名いた。このうち、9名の方が認定を受けていない方で、34名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。バスに乗車したくてもできない最も多い意見であるが、ステップの高さの解消や乗降時の見守り・介助があれば、一定数バスに乗車できる人数は増えると考えられる。また、乗降時については、降りるほうが不安があるという声が多かった。

※ 要支援・事業対象者の方は、17名。

⑤ 「バス停まで行けないため」と回答した方は、27名いた。このうち、4名の方が認定を受けていない方で、23名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。この項目を選んでいる方は、概ね④の項目も選んでいる。普段、屋外移動にシルバー

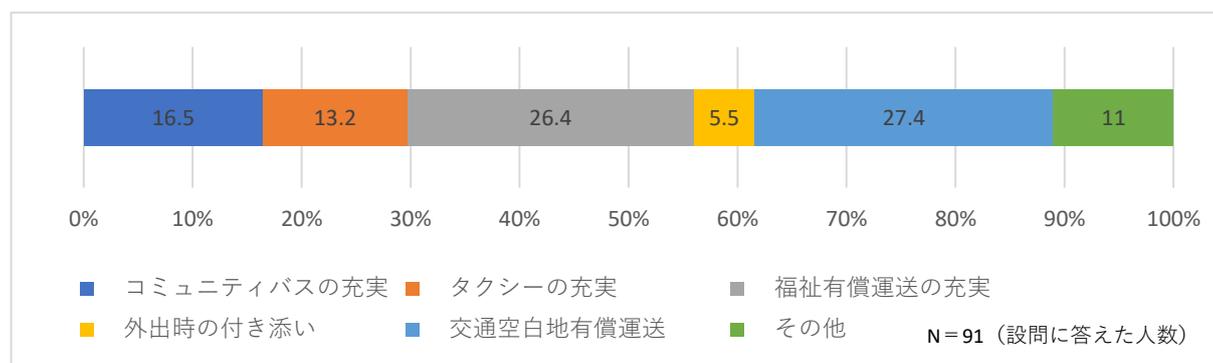
カーや歩行器 を利用している方は持ち運びが困難なため、杖を使用するも長距離は歩けないという声もあった。※ 要支援・事業対象者の方は、11名。

⑥ 「その他」の意見として

- ・タクシーを利用するから
- ・目が悪く、はっきり見えないのでバス等は乗らない
- ・町外の通院の際、コミュニティバスと中央バスの時間が合わない、という意見は特に多く聞かれた。
- ・浜一町内の方から、コミュニティバスが通らないので、現在は運転できるが今後は不便になる。1日数本でいいので通るようにしてほしいとの意見も聞かれた。

問3 移動について、困っている方にお聞きします。

あったらいいなと思うサービスをひとつだけ○をつけてください。



①移動に困っていないと回答したのは、265名中174名だった。

②移動について何らかの困りがある方～全体の約34%（91名）

③困っている方の少ない地域～ 泥の木、沖町0%だが、対象者が極端に少ない。

④特に困っている方の多い地域～ （各地域における回答者のうち）栄町66%、浜三46%、本陣45%

うち、栄町では、ほとんどの方がコミュニティバス・中央バスを使用しておらず、半数ほどが自家用車を使用しているが、運転の継続に不安があるとの理由からコミュニティバスの充実を希望する声がある。浜三では、困りがあると回答した方の多くが事業対象者以上の認定を受けており、要介護者は福祉有償運送、事業対象者・要支援者は交通空白地有償運送に対する要望が多い。

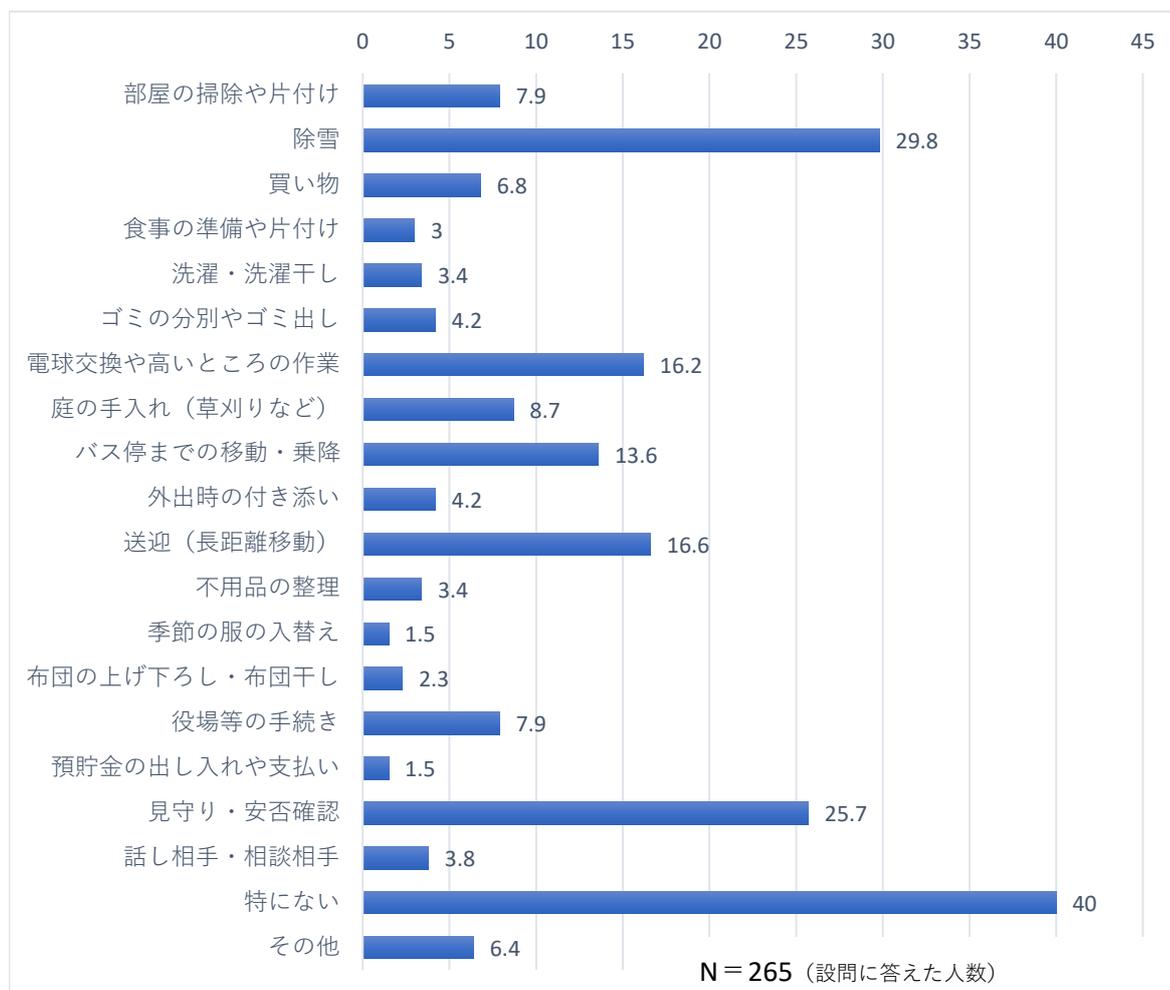
本陣では、中央バスを利用するのにバス停まで遠く、コミュニティバスとも接続が悪いとの理由で自宅からバス停まで何らかの交通手段が欲しいとの意見がある。

⑤町内での移動について、コミュニティバスでカバーされていないエリアへ行く手段が徒歩以外に無い、コミュニティバスと中央バスの接続が良くないためタクシーを利用している、徒歩で数十分かけてバス停まで行く等、コミュニティバスに乗れる方が十分に活用できていない実情がうかがえる。

⑥普段は移動に困りを感じていない方の中にも、小樽や札幌までバスに乗り続けての通院は負担が大きい、送迎を知人や親類に頼むあてはない等、個別に送迎してくれる制度を望む声がある。通院に関しては、福祉有償運送を希望する声も聞かれる。

⑦数名ではあるが、自家用車を近いうちに手放すまたは手放したばかりという方がおり、車のない生活に不自由さや不安を感じているとの声がある。（タクシー以外使い方がわからない、買い物など歩いて行けるのか）自家用車を所有している方々の中にも手放したのちの生活を不安視する声がある。

問4 毎日の生活であなたが不安や困っていると感じていること



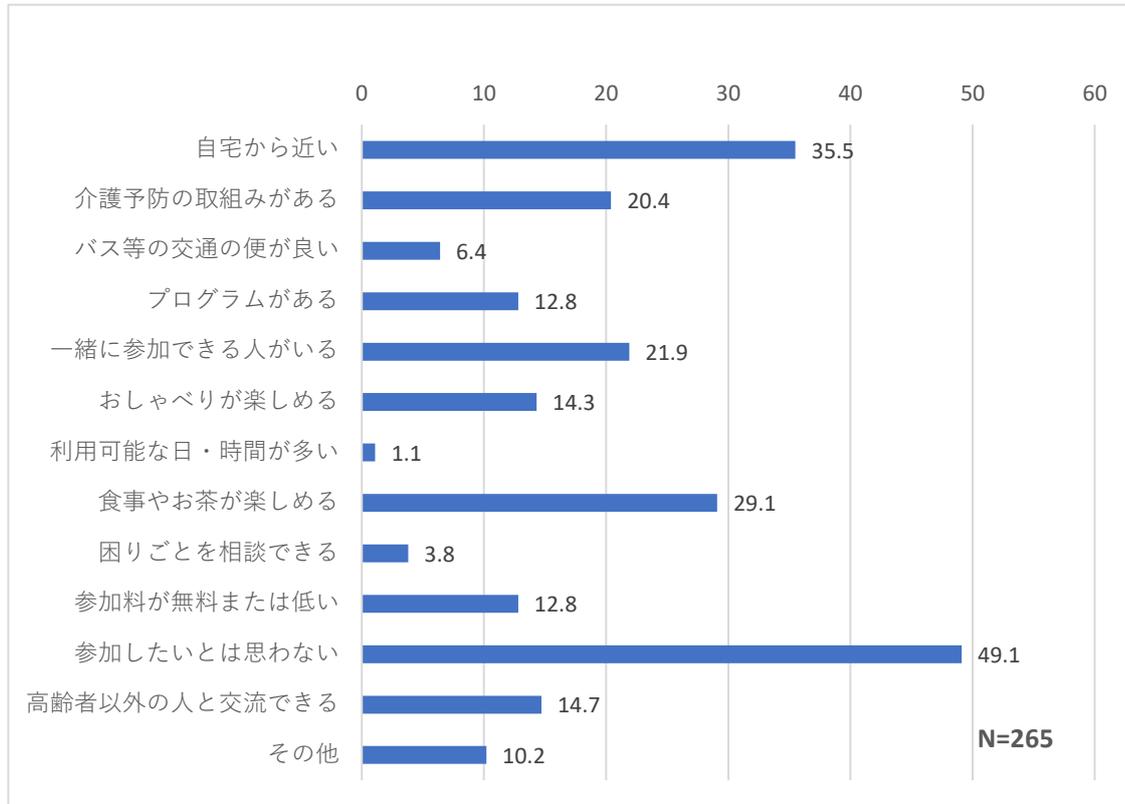
- ① 265名のうち、最も多かった意見は「特にない」で106名いた。
- ② 不安や困っていると感じている方のうち、最も多かった意見は「除雪」の79名で全体の約30%であった。このうち、43名の方は認定を受けていない方で、36名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。また、除雪に困っている79名のうち59名は女性であり、認定の有無に関わらず、除雪に困りごとを感じている方が多いこと、回答した方が女性が多いということもあるが、女性にとっても負担が大きいことがうかがえる。
- ③ 次に多かった意見は「見守り・安否確認」で68名いた。このうち、32名の方は認定を受けていない方で、36名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。また、47名の方は一人暮らしの方であり、「一人暮らしなので、体調不良の時が心配。」という声が多かった。「災害時に備えて、リュックに避難用グッズを用意している。」という方も複数名いた。
- ④ 3番目に多かった意見は「送迎（長距離移動）」で44名いた。このうち、11名の方は認定を受けていない方で、33名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方だった。“長距離移動”と感じる距離が個々によって違うが、問2でバスに乗車していると答えた方も14名選んでおり、コミュニティバスで町内は移動するが、町外の移動時には「中

中央バスの停留所までコミュニティバスで行くが時間が合わない。」「中央バスの停留所までタクシーで行くので無くなったら困る。」という意見があった。

⑤その他の意見として

- ・ゴミステーションの除雪当番があり、まめにしないといけないので大変。
- ・妻が入院したら、困る。
- ・町外の通院が(札幌など) 家族の都合が悪い時、一人で行けない。
- ・体調が悪い時の通院手段。
- ・妻(または夫) が認知症で心配。または、一人暮らしなので、将来認知症になったら心配など認知症に関する不安の声も聞かれた。

問5 どのような居場所・サロンであれば参加したいですか



①参加したいと思わないとの回答が全体の約半数。

②参加したいと思わない方うち、うわさ話や悪口が始まるから他者と集まりたくない、興味がない等、集まることにマイナスイメージがあったり関心が持てなかったりしている方と、今していること（ボランティア、友人などとの自主的な集まり、仕事ほか）に充実感を感じて他の集まることは考えていないという方に分かれた。その他、介護や見守りを要する家族（配偶者）がいるので、参加したいができないという家庭もあった。

③自宅近くでの開催のほか、送迎を希望する声がある。送迎は他の事業の場合についても希望が多い。

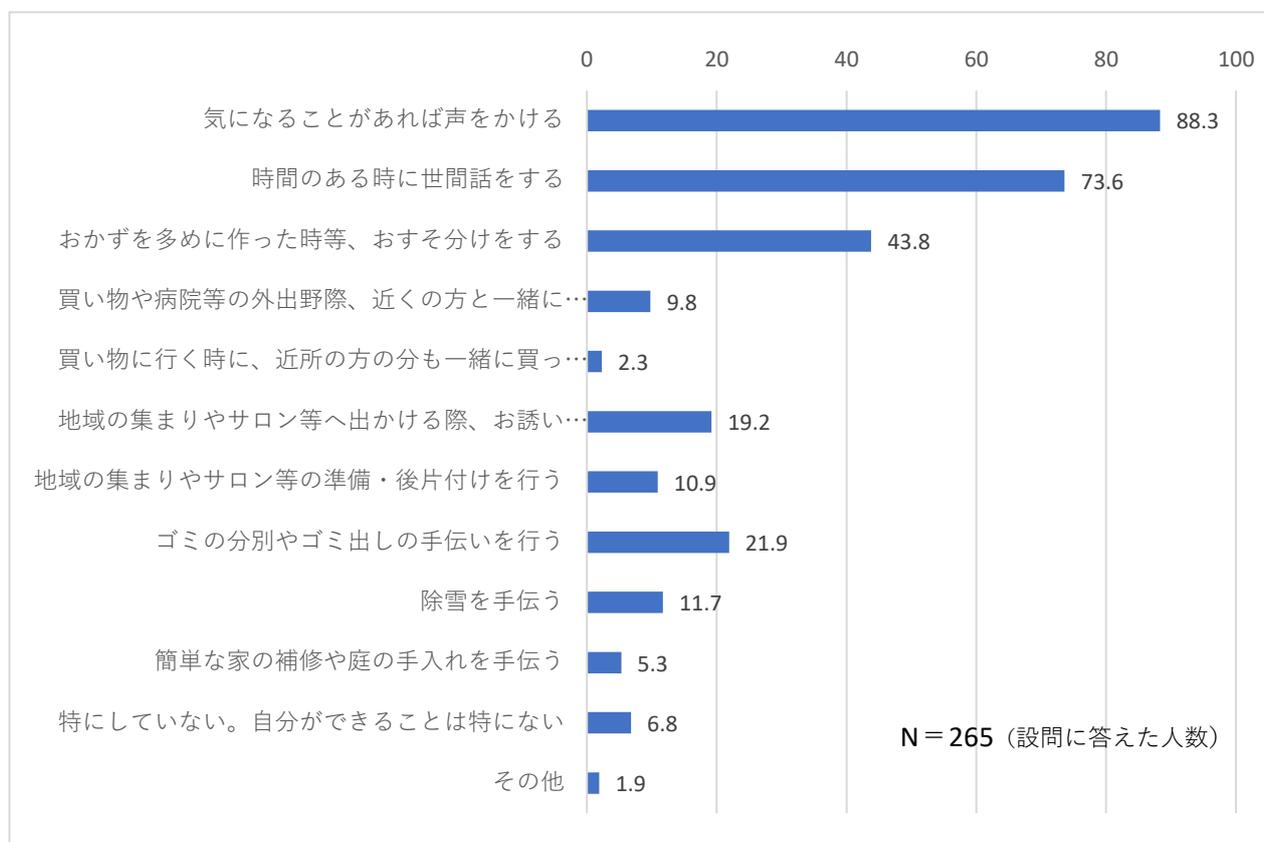
④②③から要介護者が参加できたり、要介護者の見守り等により家族が出かけられる仕組み、送迎のできる体制には需要が見込めるとされる。

⑥開催の時間・日数については「長くなくてもよい」「多くなくてもよい」との声が多い。

⑦金銭的な負担について、「低額なのは良いことだが、なにかすれば費用はかかる。無料でなくてもかまわない」との意見が多かった。

⑧世代間交流や障がい者（共働の家など）との交流については、ぜひ行いたいという方と（話題の合う）高齢者だけで過ごしたいという方に分かれる。

問6 あなたがご近所の方等にしていること、できることは何ですか

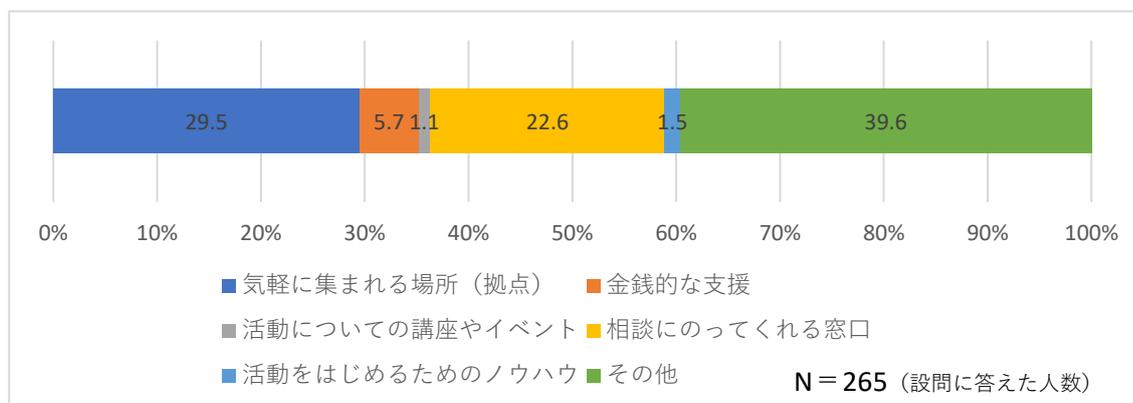


- ① 265名のうち、最も多かったのは234名で「気になることがあれば声をかける」であった。このうち、153名の方は認定を受けていない方で、81名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方であった。認定の有無に関わらず、約90%近くの方は挨拶や声かけをしているという回答であった。
- ②次に多かったのは196名で「時間のある時に世間話をする」であった。このうち、131名の方は認定を受けていない方で、65名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けない」と距離感を保ちながら、関わっている方もいた。
- ③3番目に多かったのは、116名で「おかずを多めに作った時等、おすそ分けをする」であった。このうち、83名の方は認定を受けていない方で、33名の方は要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方であった。「コロナ禍になってから、控えている。」という声も聞かれた。
- ④また、「特にしていない。自分ができることは特にな…」と回答した方は、18名であった。このうち、認定を受けていない方は12名で、要支援・事業対象者・要介護の認定を受けている方は6名だった。18名のうち11名が男性であり、回答者が女性のほうが多いが、半数以上を占めた。

⑤ その他の意見として

- ・家庭菜園でとれた野菜をあげている。
- ・仕事をしているので、暇がない。
- ・昔は交流あったが、近所の方は入院等で居なくなってしまった。
- ・今は近くにごみ捨てできない人はいないが、困っている人がいるなら手伝える。
- ・以前、認知症の方のごみ捨ての手伝いをしていたが、「勝手に捨てた。」と言われ、嫌な思いをしてからはやりたくない。

問7 何か活動したいと思った時に、あったらよいものは何ですか



①その他のうち、70%程度は「ない」との回答。“活動”の言葉から何をするかイメージできないという方や特に活動はしたくないといった理由による。

②その他のうち、残りの30%程度の中には、ある物や出来ることの範囲で行いたい（行っている）、共に取り組む仲間がほしい、送迎があればよい等の意見がある。

③金銭的な支援の中には、現物によるものも含む。

④気軽に集まれる拠点を望む声も多く、町内会の範囲でそのような場所がない地域もあるが、個人宅以外で場所がほしい。との意見がある。少々遠くとも、送迎があれば良いとの考えから、その他を選び、送迎希望とした方もいると考えられる。

⑤講座やイベント、ノウハウよりも相談窓口を希望する声が多いことから、人と接して相談しながら活動の方向性等を決めていきたいと考える方が多いと考えられる。